第5章　地域支援活動に関する国際交流

～ BUP & カロリンスカ研究所（スウェーデン）～

1. 背景

本研究科は，2011 年 3 月，スウェーデンのストックホルム県 BUP（Barn-och ungdomspsykiatri/neuropsykiatri：児童青年期精神医療），カロリンスカ研究所の KIND（カロリンスカ研究所神経発達障害センター）・カロリンスカ研究所附属のアストリッド・リングレン子ども病院児童精神科，ストックホルム大学心理学部の視察に，土岐准教授・服巻准教授の 2 名を派遣した。視察に当たっては，カロリンスカ研究所のゲスト・プロフェッサーであり本学客員教授を勤める吉武尚氏，および，BUP の Eva Serlachius 医師に仲介を執っていただいた。

スウェーデンは，全土で 18 歳未満の児童・青年を対象とした精神科治療と心理臨床実践における地域支援システムを構築している。首都ストックホルムでは，公的機関である BUP が中心となって，保健・医療・福祉・教育および大学が緊密な連携を行っている。法的根拠に基づいた支援計画を立案・推進・点検する取り組みは，北欧各国に共通する福祉国家理念と相まって，心理予防的支援の面においても注目に値する。本事業が掲げる地域支援と実務教育の融合という面において，その先進性に参考にすべき点が多かった（2010 年度報告書に詳細）。その後，本事業の進展や成果，および，臨床心理学的地域支援に関する最新の知見に関して BUP 各機関と電子メールなどで共有を行った。そして，2012 年 9 月，本事業の成果と意義についてディスカッションを行うため，プロジェクト・リーダーの土岐准教授がストックホルム再訪を行った。

2. 目的

今回の国際交流の目的は，以下の 4 点である。

(1)本事業の経過についてのディスカッション：本事業は，初年度である平成 22 年度に県内 6 地域を対象として支援者対象の講演会を行った。中間年度である平成 23 年度は，北薩，霧島，南薩の 3 地域に絞り，講演会から事例検討会へと支援形態を広げた。また，MICT（Mobile Information and Communication Technologies；携帯情報伝達技術）を使用した架空事例検討会と演習授業との併行開催を試験的に行った。最終年度である平成 24 年度は，地域支援者だけでなく当事者まで対象を広げた支援を行い，MICT を使用した実際の事例検討会と演習授業を実施した。こうした本事業の経過と成果についてプレゼンテーションを行い，

フィードバックを得る。さらに，今後の地域支援の課題についてのディスカッションを行う。

(2)心理予防的支援に関する情報収集：各地域における支援後のアンケートからは，啓発活動や実際の事例検討，そして，コンサルテーションへのニーズが高いことがわかった。さらに，心理的問題への対応理解だけでなく，心理予防的支援のニーズも高いことが明らかになり，来談方式からデリバリー方式への転換にあたり，最新の心理予防的支援に関する情報収集を行う。

(3)地域支援と実務教育の融合に関する情報収集：本事業は，地域支援と実務教育の融合による実務教育の授業カリキュラムの構築を目指している。視察地の大学院教育における実務教育の現状について，大学側と臨床機関の両方で調査を行う。

(4)国際共同研究に向けての基盤づくり：本研究科は，臨床心理学専門職大学院として先駆的試行を継続的に行い，平成 20，21 年度に専門職大学院 GP において九州大学と共同研究を行った。さらなる実務教育の充実を図るために，国際的視野に立った共同研究が求められる。本研究科では専任教員 4 名が科学研究費助成事業を獲得しており，また，各教員が地域貢献を行っている現状を踏まえ，今後の国際交流・国際研究への基盤を組織的に整備する必要がある。その一歩として地域支援における臨床心理的技術の相互提供・研修会を目的とした招聘の可能性を具体的に探る。

3. 報告

今回は，ストックホルム県 BUP グリンデン，BUP ファースタ，カロリンスカ研究所の KIND，ストックホルム大学心理学部の 4 カ所を訪問した。いずれも前回に訪問を行っており，各担当者からは丁寧な歓迎を受けた。また，前回御世話いただいた吉武尚教授，ウプサラ大学に留学中である服巻准教授と情報交換を行うことができた（日程と概要については表を参照)。

(1)BUP グリンデン(BUP Grinden)

BUP グリンデンは，家庭内暴力や性的虐待の被害者である（あるいは，疑われる）子ども達を治療・ケアするための特別なユニットである。今回の訪問後には，BUP Traumaenhet

（トラウマ・ユニット）に名称変更が行われ，被災者のトラウマ治療も支援対象となった。

BUP グリンデンにおける臨床心理学的支援としては，人形や専用カード，絵画などを媒介とした trauma focused play を中心に行っており，12 回のセッションの標準化が行われている。また，長期的予後の改善を目指して，子どもの言語化を促進するためのアプローチも多く開発されており，支援研修は国内だけでなく，ポーランドやエストニアなど海外でも展開されている。

今回は，新しく所長になった Moa Mannheimer と会い，スウェーデンと日本における性的虐待の理解と対応の現状についてディスカッションを行った後，前回の訪問で知ったオリジナルの支援ツール「The Vasa Tool Box」について詳細を確認した。本支援ツールは，いずれのアプローチも「子ども達は，自分の受けた影響について自分の意見を述べる権利があり，どういった表現をするかも選択する権利があり，意見を正当化される権利がある」という立場に基づいた治療的アプローチを特徴とする。今回の交流では，「The Vasa Tool Box」の本邦における紹介優先権を得ることができ，今後の招聘とワークショップ開催の可能性について意見交換を行うことができた。

(2) KIND (Karolinska Institutet Neurodevelopment Disorder)

KIND は，2010 年末より神経発達心理学の第一人者である Sven Bölte 教授がリーダーとなって，発達障害における最先端の研究を行うと共に，BUP と共に実践的支援および支援システムを開発するために，カロリンスカ研究所に設けられた新しいプロジェクトである。アストリッド・リングレン子ども病院にオフィスがあるので，カロリンスカ研究所児童精神医学部とストックホルム大学心理学部が共に臨床実習を行う環境である。前回の訪問時より，BUP との人材交流が活発化しており，新たな支援マニュアル作成や啓発活動も盛んに進んでいた。

今回は，地域支援者との交流の場として機能している，月 1 回の KIND セミナーに参加した。ストックホルム大学の言語発達学者である Francisco Lacender 教授による，乳児期における言語獲得発達を音声学的見地から捉える講義は，最新の脳科学研究に基づく音声的発達の変化が言語・コミュニケーション発達の特質について最新の研究成果だった。このアカデミックなセミナーも，非常に落ち着いたパーソナルな雰囲気（参加者は 40 名ほど）で行われ，大学院生を中心に質問時間が充分与えられており印象的であった（全員がコメントを述べた）。両教授のお話しでは，学生や地域支援者を主体とした KIND セミナーは継続的に開催され，研究者と地域支援者の交流促進になっているとのことだった。

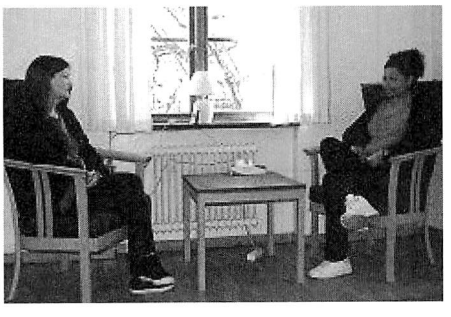
当研究科の地域支援活動については，地域の保護者会との協働での講演会・学習会は独自性があるのではないかということだった。スウェーデンでは発達障害関連の当事者団体は多数あり，そのレベルに支援を働きかけることはある。KIND の方法論は，むしろ交流拠点であるアストリッド・リングレン子ども病院を通じて地域との連携を強化する方向性にあるように思えた。

(3)ストックホルム大学心理学部

ストックホルム大学は，1878 年開設の国立総合大学であり，約 40,000 人の学生が学ぶ。社会科学部門にある心理学部は，約 200 名のスタッフであり，最大部門の中のひとつである。講義・研究棟と心理療法クリニックを独立して有している。

5 年間の心理学プログラムと 3 年間の心理療法プログラムを含んでおり，約 300 名の学生が学んでいる。生物心理学，臨床心理学，認知心理学，知覚・心理物理学，パーソナリティ心理学，発達心理学の 6 つの研究部門を有し，学部から博士課程に至る心理学プログラムと心理療法プログラムなどが含まれている。

今回の訪問では，心理療法実習プログラムの責任者である Pia Risholm Mothander 准教授から大学教育に関する情報を得た。支援実践者養成である精神療法プログラムが，従来の研究者養成中心のプログラムから明確に分化したのは 2007 年であり，国家資格である臨床心理士取得を目指した精神分析療法と認知行動療法の 2 本立てのコースが展開されている。スウェーデンでは，心理学部の学生だけでなく，教師や看護師など多くの対人援助職が上級教育として精神療法プログラムに進むという。3 年間のプログラムでありながら，ハーフタイムの授業設定となっているので，社会人入学も多数あるとのことだった。2010 年からは，専門職の基本・精神療法の理論と方法論・心理療法と研究方法・論文作成・心理療法実践の 5 つのパートから成る教育を行っている。



（心理療法クリニック面接室：ストックホルム大学心理学部のホームページより）

当研究科の地域支援活動については，ストックホルム大学心理学部では類似した取り組みはなく，デリバリー型の支援も行っていないようだった。ただ，学内実習と学外実習を通じて各機関との連携は多く，専門性を通じた間接支援機能は充分に果たしているようだった。この点は，各専門職がすでに地域に充実しているストックホルムとの状況の違いも大きいように思われた。

また，今回は Aiko Lundequist 氏の博士号公聴会に参加する機会を得た。ストックホルムでは NICU ベビーの成人までの長期フォローアップが行われており，知的発達面においては比較的順調ではあるが，認知特性面では種々の障害特性が顕著になるという内容で，議論も含めてたいへん興味深かった。

(4)BUP ファースタ

BUP ファースタは，ストックホルムの南東部地域をカバーする地域児童精神科クリニックの一つであったが，本年度からは BUP の精神神経ユニットとして，子どもの包括的アセスメントと治療法の開発を担当し，場所と業務が拡張することになった。今回は，所長の Harald Sturm 医師と Eric Zander 心理士他，10 名のスタッフと交流することができた。BUP における子どもの診療プロセスは，各職種が協力して担当する 8 つのパートに分けられ，地域訪問も含まれている。特に心理検査や行動観察においては Vineland-II（ヴァインランド適応行動スケール）や ADI-R（自閉症診断面接）などの最新の知見が導入され興味深かった。子どもを総合的に捉え評価して，治療・支援計画を構築していく新たなアプローチにおいて，臨床心理士が果たす役割は大きいと感じた。

（BUP ファースタがある駅周辺のモール：BUP ファースタのホームページより）

今回は，本研究科の地域支援についてプレゼンテーションを行った後，ディスカッションに移った。ファースタでは担当地域に離島があるため，デリバリー型の支援を行ってい

るとのことだった。医学系・心理系の大学院生を実習で受け入れているため，陪席する機会もあるとのことだった。また，診療ケースは，評価や支援のために学校などの訪問を積極的に行っているため，個別事例を中心とした地域アプローチがメインであった。MICTに関しては，遠隔地や離島が多いため講義や事例検討に利用価値は高いのではないかとのコメントを得た。臨床実習や臨床実践における ICT は，情報データベースやチュートリアル，カルテ記録などで，すでに日常的使用が行われており，今後も推進されるとのことだった。

Harald Sturm 医師と Eric Zander 心理士は，精神神経ユニットの研究テーマである，4歳未満の発達障害を有する子どもの発達評価や障害特定に関して情報交換し，継続した発展的交流を行うことを快諾してくれた。

4. まとめ

今回の交流は，多くの方の協力を得ることができ，当初の目的に沿って進めることができた。本支援プロジェクトのオリジナリティや意義を確認することができ，今後は地域における心理予防的支援へと視野を向ける必要性があることがわかった。ストックホルムにおける心理学的支援は，すでに各大学と地域が様々な形で結びついており，伝統と歴史を感じるとともに，組織の見直しのスピードも早く柔軟性に富んでいる。前回訪問時からシステムや名称ごと変化した例も複数あり，正直驚いた。しかし，関わるスタッフの多くは，継続している点も特徴であろう。

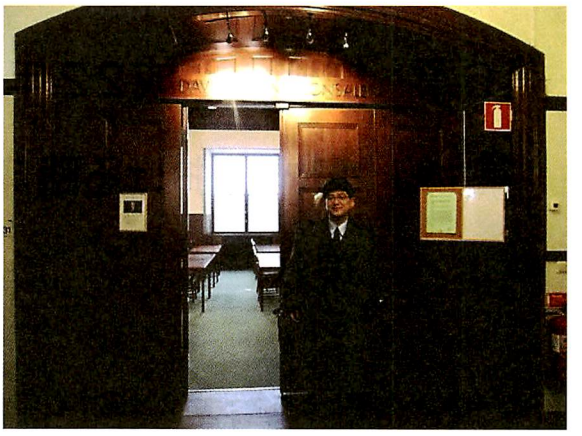
今後は人事交流を通じながら情報交換を行い，共通の基盤を探りながら，優れた点を多く有しているが，地理的・言語的条件のために本邦ではほとんど知られていないスウェーデンの心理学的支援システムの紹介を積極的に行い，今後の共同研究の可能性につなげていきたいと考える。

視察概要

平成 24 年 9 月 23 日	**Takashi Yoshitake**, PhD, Guest Professor, Department of Physiology Section of Pharmacological Neurochemistry Karolinska Institutet	Stockholm Central (discussion)
平成 24 年 9 月 24 日	**Yutaka Haramaki**, Our project co-leader	Uppsala (discussion)
平成 24 年 9 月 25 日	**Moa Mannheimer**, Psychologist, Director of BUP Grinden	BUP Grinden (discussion)
	Sven Bölte, PhD, Professor in Child and Adolescent Psychiatric Science at the Department of Women's and Children's Health Karolinska Institutet and director of KIND	Karolinska Institutet (presentation, discussion)
平成 24 年 9 月 26 日	**Pia Risholm Mothander**, Psychologist, Associate Professor,Department of Psychology Stockholm University **Aiko Lundequist**, PhD, Department of Psychology Stockholm University	Stockholm University (hearing)
	Harald Sturm, MD, Director of Neuropsychiatric Unit South East, Child and Adolescent Psychiatry and BUP Farsta **Eric Zander**, Psychologist, Neuropsychiatric Unit South East, Child and Adolescent Psychiatry and BUP Farsta and KIND	Stockholm Central (discussion)
平成 24 年 9 月 27 日	**Harald Sturm**, MD, Director of Neuropsychiatric Unit South East, Child and Adolescent Psychiatry and BUP Farsta	BUP Farsta (presentation, discussion)

BUP Grinden

右：Ms.Moa（BUP Grinden・ディレクター）

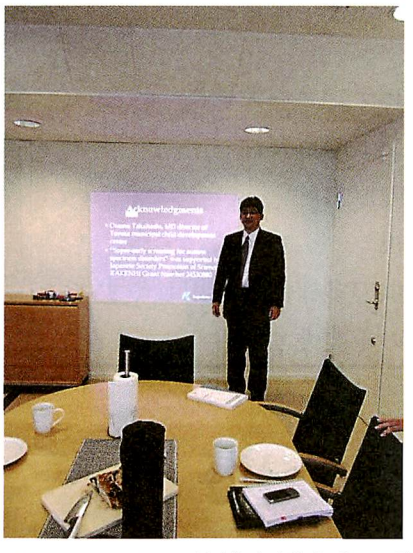


ストックホルム大学心理学部講堂

ストックホルム大学

左：Ms.Pia（心理学部准教授）

ストックホルム大学心理学部



BUP Farsta での地域支援事業の説明

BUP Farsta（Harald Sturm 医師，他スタッフ）